

和泉の観ボラだより 第21号

和泉観光ボランティアクラブ 2020年3月発行

心なごむ 和泉市の桜



黒鳥山の桜



はつが野1号公園(桃山学院大学近隣)

和泉市各地の桜

和泉市北部には、黒鳥山一面に咲き誇り、中央部街中のはつが野1号公園、南部の山間地域には、槇尾山山頂近くの施福寺、谷合沢筋の阿弥陀寺、山里の松尾寺に春の訪れをつける。

心を和ませるそれぞれの風景があり、地域の方々の営みに根差した信仰の場として、古よりの奥深さと心の豊かさを感じさせられる

観光ガイドへのお問い合わせ先は下記にお願いします

〒594-0071 和泉市府中町 1-19-9 (和泉府中駅前)

和泉市いずみの国観光おもてなし処 気付「和泉観光ボランティアクラブ」

TEL : 0725-40-5552 、 FAX : 0725-40-5553





出典：施福寺

榎尾山 施福寺

天台宗の寺院で、西国33か所の4番札所。古代ヤマト王権の航海の安全を祈願する聖山で、仏教公伝538年頃 欽明天皇の勅願によって建立された。

本尊は丈六の弥勒如来像で慶長年間の作。登り始めると山門に迎えられ、参道を進む内、古くからの信仰の厚さに心穏やかにさせられ、歴史を刻んだ石段が心を打つ。泉北高速鉄道 和泉中央駅前より、「榎尾山口」又は「父鬼」行にのバスに乗り、榎尾中学校前で下車、オレンジバスに乗り継ぎ終点下車。オレンジバスの接続を確認すること。

大野谷合の阿弥陀寺

寺伝によると、奈良時代の僧行基が榎尾山に37日間籠り光明皇后の安産祈願をしたところ、無事出産されたので、櫻樹で仏像を刻みここに安置したのが始まりといわれている。四季を問わず安産祈願の参拝者で賑わっている。

若樫口から国道480号を進み、逢野トンネルを抜けると左手に眺望が開け、山裾に阿弥陀寺の全容を拝することができ、此処に寺が位置する奥深さを感じる。泉北高速鉄道 和泉中央駅前より南海バス「父鬼」行に乗り大野下車、小橋を渡り左寄りに坂を登る。



山里の松尾寺

創建年代は明らかでないが、旧境内地から白鳳時代の古瓦が出土している。

寺伝によると、役行者がここで修行した際如意輪観音像を刻んでここに安置したのが始まりで、奈良時代に越前の泰澄大師が諸堂を整え、中興したと伝わっている。

①泉北高速鉄道 和泉中央駅前より南海バス「松尾寺」行で終点下車。南に歩き、案内板に従って左折。石段を登る。(バスの本数が少ない) ②南海バス「はつが野」行で、「南松尾はつが野学園前」下車。南に進み、広い道路を渡って左折。少し登ると寺の境内への入口がある。

若樫の百滝桜(ももたきざくら)

松尾川の支流に架かる坂見橋畔の斜面にある推定樹齢百年のシダレ桜。樹高約8メートル、幹周り約2.2メートル 谷に向かって長く垂れ下がった淡紅色の花茎は見事である。この樹は個人の所有なので見学の際は配慮が必要である。

泉北高速鉄道 和泉中央駅前より南海バス「若樫」行に乗り終点下車 西進すると橋畔にある。



ART GUSH展示ガイド



心に響く30作品

和泉市が打ち出した、和泉・久保惣ミュージアムタウン構想の一環として、和泉の魅力発見・歴史とアートの街を探訪と題した、和泉市モニタリングツアーが実施されました。

2019年10月・11月にかけて、観光バスによる北摂方面の方々の、和泉市内観光めぐりがあり、その一つとして桃山学院大学・宮ノ上公園エリア内にあるアートガッシュの見学がありました。関西所縁の多彩なクリエイター30組により、久保惣記念美術館から30点のコレクションが姿を変え、主に和泉中央駅周辺・和泉シティプラザエリア、桃山学院大学・宮ノ上公園エリアの、壁面・トンネル・階段等の建築・土木施設に描かれています。

初めに公園内の入口にある複数作品をガイドさせて頂き、その後公園内を自由散策・見学になりました。要所に観光ボランティアメンバーが待機し、お越し頂いた方に作品等のガイドをさせて頂きました。寒い季節にも関わらず皆様熱心に見学されました。芸術というものは個人が作品を見た時、どの作品に注視するか人それぞれです。自分で何かを感じたり、気付いたり、考えたり、刺激を受けたり、感動したりすることが芸術の見方ではないでしょうか。皆様も機会がありましたら是非ご覧になって下さい。これをきっかけに美術館のある街、和泉市を再認識して頂ければと思います。(辻本正浩)

「光明皇后伝説」のガイド

このテーマで1月7日に和泉市の「支援司書の会」様をガイドしました。光明皇后は東大寺を創建された聖武天皇の皇后です。藤原不比等と橘三千代の間に生まれた女子で史上初の民間出身皇后ですが、ここ和泉市の伝説では、国分町にある浄福寺で修業した智海上人と女鹿の間に生まれた女子で室堂町の養家で育ちその後、勅願で槇尾山に訪れた藤原不比等に見初められ、都に上ったと伝えられています。

光明池は光明皇后から名前を取ったわけですが完成は昭和初期です。歩いて回れる遊歩道があり、春は桜、冬はメタセコイヤの並木と美しい吊り橋があります。近年は女鹿と皇后の石碑が作られていますし、池の建設工事で犠牲となった朝鮮人労働者慰霊碑があって、その日も献花されていました。又、池の近くには、都に上る子を女鹿が見送ったとされる女鹿坂がバス停留所に名を残しています。

奈良時代に律令制度とともに国が生まれ、東大寺を中心に国分寺が建設されました。和泉の国分寺は国衙の有った府中町では無く国分町に現存します。国衙からかなり離れた場所ですが、近くに光明皇后生誕所の石碑と智海上人が修行を行った浄福寺があり、当時の和泉国司が何かに忖度したのかも知れません。

藤原氏の氏神である春日神社は三林町にもあります。かなり広い境内で古墳が19基、狛犬も17対も置いてあります。この辺は藤原氏の荘園であった時代もあり、鹿は神の使です。伝説の背景も想像出来ます。(山出 弘)



『光明皇后』 1897年(明治30年)下村観山画 (三の丸尚蔵館蔵)、出典:Wikipedia辞書

■ 堺観光ボランティア協会との交流

2019年12月18日(水)、NPO法人堺観光ボランティア協会殿との交流会を開き、11名の会員が参加しました。当日は13時に泉北泉ヶ丘駅に集合し、法道寺、櫻井神社などをガイドして頂き、15時20分ごろから先方に準備いただいた柵・美木多駅近くの教室で交流会を行いました。先方は理事長はじめ3名の方々が参加され貴重なお話を聞かせて頂きました。会員数が当クラブのほぼ10倍、年間案内数が今年は1000件を越すだろうとのお話に、ただただ規模の違いに驚き、巨象と蟻の遭遇だなと思いました。しかしながら過去に目を向けますと、いろいろ参考にさせて頂ける事例もあり、とても勉強になりました。蟻は蟻としての良いところもあるので、当面はその部分を磨いてゆきたいと感じました。堺観光ボランティア協会理事長はじめ皆さま、有難うございました。今後ともよろしく願い申し上げます。(松浦 敦)



■ 古代史跡と名刹のガイド

海が育んだ和泉歴史ロマンの一つ。秋色濃い空の下に、時空を超え佇む池上曾根史跡弥生の高殿。皆さんのお顔が興味津々。建物柱は何処で調達しどんな風に運んだ。屋根葺き萱も何処から。弥生人って醤油を作り食していた。広い稲作田を持った環濠集落。

明るい笑い声の中、バスは護るに易く攻めるに難しの地形に建てられた松尾寺へワープして江戸の世界へ。「お待ちしてましたよ」樹齢七百年の楠木。女性のお守り役の木とか云われ、樟脳の原材料で虫がつかない。



池上曾根史跡 いずみの高殿



松尾寺山門

お寺に欠かせないものと云えば木魚。音色が良い虫がつかない。加工しやすい。

紅葉時のインスタ映え境内。門の上から弥勒菩薩様がお出迎え。勤行に包まれる本殿の佇まい。諸行無常沙羅双樹に見送られる皆様の顔が、仏に見えたひと時で御座いました。

(細川陽徳)

■ 和泉観光ボランティアクラブ 7期生ガイド養成講座受講募集

和泉市に興味をお持ちの方、ガイドをしてみたい方、郷土の歴史を学びたい方は、是非ガイド養成講座に参加頂き、会員となって和泉市のPRを共にしましょう。全6回のうち4回以上参加の方には、終了時に「修了証」をお渡しします。詳しい内容は、7期生養成講座の案内パンフレットをご覧ください。実施日:2020年5月13・27日、6月10・24日、7月8・22日。 問合せ先:和泉市いずみの国観光おもてなし処 0725-40-5552まで。

訂正とお詫び:20号のP4下部記事中に、「8町8基」と記しましたが、「9町9基」の誤りでした。お詫びを申し上げますと共に、今後の編集作業の糧とさせていただきます。ご指摘に感謝します。

記事に誤りがあった場合は、次号にて訂正させていただきます。

(和泉観光ボランティアクラブ)

【編集後記】編集にご寄稿・ご協力頂きました皆様に心より感謝致します。

和泉市の幹線道路に面した新拠点・街並みは現代的な魅力があり、自然豊かな丘陵・森には歴史的な多様な遺産が佇んでいる。古の街道を歩めば往時をしのばせる風情を感じることが出来ます。

筆者が違えば同じものでも違ったものが見えてくる。観ボラ記事の面白さは、会員の捉えどころの違いが興味をよび、新たな発見に繋がることも多々ある事です。

同じ町・同じ道を歩んでもその度ごとに新しい発見がある和泉の魅力は、改めて古からの人々の営みや文化に触れるにつけ、歴史の重み・深みを何度も感じさせられます。(編集委員長:渡辺廣史)